

令和3～5年度 東京都教育委員会授業改善推進拠点校

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善  
～指導と評価の一体化の実現～」



はじめに

本校は、令和3～5年度東京都教育委員会の「授業改善推進拠点校」の指定を受けました。授業改善推進拠点校の研究として、生徒の学力向上を図るため、東京都の「生徒の学力向上を図るための調査」を全国学力・学習状況調査結果と関連付け、学びに向かう力等に着眼しながら分析し、指導と評価の一体化による授業改善を組織的に推進してまいりました。本校の研究テーマは「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～指導と評価の一体化の実現～」です。

授業改善推進拠点校の研究として、生徒の意識調査、日ごろの授業の様子、テスト結果等を分析し、全教科で取り組む共通事項を設定しました。それを受けて、各教科で研究計画書の作成し、一人一研究授業に取り組み、教科ごとに研究報告書を作成し成果と課題を明らかにしました。また、全教員が4つのプロジェクトチームに分かれて「生徒の学力向上を図るための調査の効果的な分析方法の開発・実践」、「授業改善の実現に向けた組織的なOJTの推進」、「生徒一人一人の学びに向かう力等を育む指導方法の開発・実践」、「効果的な家庭学習の指導事例の開発」の研究にも取り組みました。

今年度は研究初年度で、まだ研究途上ではありますが、本報告が令和5年度に行われる研究発表会の1つのステップとなることを願って、ここに報告いたします。

鷹南学園三鷹市立第五中学校

令和4年3月

# 三鷹市立第五中学校 令和3年度研究構想図

## 教育目標

平和的な国際社会の実現に貢献できる人間の基礎的な素養を育てる（人間力）とともに、自ら主体的にたくましく生き抜く生徒を育てる（社会力）

◎進んで考える人      ○情操豊かな人      ○心身ともに健康な人

## 目指す生徒像

自らの学びを計画し実践できる、見通しをもって粘り強く取り組む力を身に付けた生徒

## 研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

～指導と評価の一体化の実現～

## 研究仮説

【意識調査から明らかになった本校の課題】

- ① わかることやできることが楽しい、しっかり考えられるようになりたい、将来の仕事や生活に役立つという内発的動機を高める必要がある。
- ② 本当の意味でこれからの時代を生きていくために、学習を深い学びに結びつける必要がある。
- ③ できない生徒にはスモールステップを提示し、生徒一人一人が自分にあった目標を持ち、なぜそれがいいのか考え、わかったという実感をもつように学習させる必要がある。

【課題解決のための共通事項】 ※どのように実現するかは各教科の基礎研究で検討し実践する。

- ①プリントやテスト問題のユニバーサルデザイン化
- ②対話的場面、話し合う場面を設定する。
- ③学習を深い学びに結びつける。

### 「研究の仮説」

生徒の学力向上を果たすためには、生徒の内発的動機付け、すなわち学習意欲向上を図る必要がある。全教科で共通事項3点に取り組み、授業改善を図ることで、学習意欲を向上させ、学力向上を果たすことができるのではないか。

## 研究の内容

- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の効果的な分析方法の開発・実践
- ・授業改善の実現に向けた組織的なOJTの推進
- ・生徒一人一人の学びに向かう力等を育む指導方法の開発・実践
- ・効果的な家庭学習の指導事例の開発
- ・研究・開発による成果の発信及び普及

### 研究の分析・評価

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を全国学力・学習状況調査の結果等と関連付けて効果的に分析する方法を開発・実践する。

## 授業実践として

○めあて の提示	○主体的・対話的で深い学びの実現 OICTやiPadを用いてペア学習やグループ学習を活用して対話を深める	○まとめ ○振り返り
-------------	---	---------------

・一人一研究授業を録画し、校内の教員のみ必要に応じて視聴できるようにする。研究協議の記録を共有する。・互いの授業を見合いOJTで授業改善を進める・単元の指導計画・評価計画を作成して可能な教科は提示して生徒に学習の見通しをもたせ、指導と評価の一体化を実現する。

## 研究の背景

- ・令和2年度の三鷹市学力調査の本校の生徒の結果は、全ての教科で三鷹市の平均を下回っている。
- ・本校は令和3年度～令和5年度東京都教育委員会の「授業改善推進拠点校」の指定を受けた。「授業改善推進拠点校」とは、生徒の学力向上を図るため東京都教育委員会の「生徒の学力向上を図るための調査」を全国学力・学習状況調査の結果と関連付け、学びに向かう力等に着目しながら分析し、指導と評価の一体化による授業改善を組織的に推進する取り組みを実践的に研究・開発し、その成果を全都に推進普及する拠点校である。
- ・三鷹市立第五中学校を含めた鷹南学園は令和3年度～令和4年度三鷹市教育研究協力校の指定を受け、『9年間を通して、「主体的・対話的で深い学び」での日常の授業改善による児童、生徒の資質・能力の育成』にも取り組む。

## 授業改善に向けた取組

- 1 令和3年度から評価の観点が増え3観点になり、各教科とも、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、資質・能力の3つの柱である「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」をバランスよく向上させるために、指導計画・評価計画を作成し、指導と評価の一体化を実現させる。
- 2 東京都教育委員会の授業改善推進校の指定を受け、東京都教育委員会の実施する学力向上を図るための意識調査結果の分析をもとに、学力向上を図る。

## 全教科で取り組む共通事項の設定

- 1 6月に実施した都の意識調査の分析結果より研究の方向性を検討

生徒の意識調査の質問項目「授業の内容はどれくらいわかりますか」「学習はどれくらい得意ですか」の肯定的回答率を増やし、個々の生徒の学習意欲を高め、学力向上に結び付けていく必要がある。そのためには、「わかることやできることが楽しい」、「しっかり考えられるようになりたい」、「将来の仕事や生活に役立つ」という、生徒の内発的動機付けを高めることが重要である。内発的動機付けを高めることにつながるのには「価値付け方略」といい、学習が「自分のためだと考えること」、「目標のためだと考えること」、「目標を立てて始めること」、「する理由を考えること」という経験を授業でさせ、それが個々の家庭学習にも結び付き、自主的に学習を進めることができるようにすることが大切である。

- 2 方向性から本校の課題を見出す（講師の先生からの助言）

生徒の学習意欲を向上させ、学力向上を図るために「いかに内発的動機付けを高め、学習意欲を向上させ、学力向上に結び付けていくのか」⇒価値付け方略を決める手がかりは……

- (1) できない生徒にはスモールステップを提示し、生徒一人一人が自分にあった目標を持ち、なぜそれがいいのか考え、わかったという実感をもつように学習させる。
- (2) 本当の意味でこれからの時代を生きていくためには、深い学びに結び付ける必要がある。

- 3 見出された課題・・・上記(1)と(2)からできること


- (1) プリントやテスト問題等のユニバーサルデザイン化⇒プリントを見ただけで諦めてしまう生徒にも視覚的に捉えやすく、取り組みやすいテスト問題やプリントを作成する必要がある。テスト問題やプリントの内容や難易度を変えるのではなく、ユニバーサルデザイン化を工夫し、生徒がやってみようとする意欲を引き出す。
- (2) 安心安全な人間関係をベースにした「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学びにつなげる」⇒まず生徒の主体的な学びを引き出すように授業の導入を工夫し、説明中心の授業から、思考の場を設定し、仲間と意見交換しながら、解決策を検討していくように、対話的な場を設定し、深い学びにつなげる必要がある。

- 4 本校の研究テーマ『「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」～指導と評価の一体化の実現～』にそって、意識調査の分析結果をいかして全教科で取り組む共通事項

### 【全教科で取り組む共通3項目】

- プリントやテスト問題のユニバーサルデザイン化。
- 対話的場面、話し合う場を設定する。
- 学習を深い学びに結び付ける。



<p>国語科 第1学年「少年の日の思い出」 主任教諭 合田 あゆみ</p> <p>【授業改善のポイント】①主体的な学び：「伏線」を探すという魅力的な内容で生徒の主体性を引き出す。「伏線とは何か」でとまどった生徒がいた。しかし、数名が発表すると「自分も・・・」と勇気づけられて、授業後半では自分が考えた「伏線」を積極的に発言できた。授業終わりには「わかった」という実感がもてた。②対話的な学び：教科書本文のワードのテキストに付箋を貼る形式で班ごとに班会議を行えば、ICTを使用することで時間短縮になる。③深い学び：仲間の発表を聞くうちに、更に自分の気が付いたことを書き込んで発表させた。仲間の発表を聞くことで、仲間も自分もまだ気が付いていない伏線を発表しようと、深く考えていた。最後に授業を行った学級では20個の伏線を見つけた。</p>	<p>国語科 第2学年「徒然草」主任教諭 杉本 朋子</p> <p>【授業改善のポイント】①主体的な学び：教科書教材以外の「徒然草」の原文の内容を解釈するためのワークシートに、各自が取り組んだ。自分の考えを書く欄とその後の仲間との交流で確認できたことを書き込む欄を分けておくことで、学習後、自己の学習過程がわかるような工夫をした。・粘り強く試行錯誤の必要のある活動：「私版 徒然草」を作成する際に、既習事項を確認したり、辞書や便覧を参照したり試行錯誤する様子が見られた。②対話的な学び：個別学習（教材との対話）→4人グループによる交流。（他者との対話）→全体での交流（他者との対話）→個別学習（教材との再対話）担当教師自身が20年以上実践している学習形態である。③深い学び：兼好法師の考え方には現在に通じる。自分の体験をもとに、社会に通じる「教訓」を考え文章化し、自己の考えの形成ができた。</p>
<p>【講師からの指導助言】内容を十分に理解させることで「主人公が大人になっても消すことができない傷を負っていること」「その苦しさを理解してほしい」とこの思い出を語っていること、「最後のチョウを潰す場面は最初の僕が語り出す場面とつながっていること」を実感させることができる。</p>	<p>【講師からの指導助言】授業の流れはよい。帯単元は語彙を豊かにする一助になっている。生徒も個人学習、グループ学習によく取り組んでいた。言語活動として「書くこと」に落とすのは良いが、「書くこと」を教えているのではないので、評価の観点を再考すると良い。</p>
<p>社会科 地理 第2学年「東北地方」 主任教諭 飯塚 修爽</p> <p>【授業改善のポイント】①主体的な学び：東北の三大祭り、または、東北地方の伝統工芸について、グループ内で先生、生徒役に分かれてタブレットを用いた授業行う。②対話的な学び：教え合う時間を2時間設定し、グループ活動を2回行う。授業後に、お互いの良い点、改善点を伝え合い、次の授業に生かす。③深い学び：教員や生徒同士の助言を生かし、授業案を修正して授業を改善する。</p>	<p>社会科 公民 第3学年「裁判員制度」 主任教諭 大森 拓</p> <p>【授業改善のポイント】①主体的な学び：webサービス「Kahoot!」によるクイズ形式の「前時の復習」、webサービス「Mentimeter」による「リアルタイム投票」、「意見の共有」。②対話的な学び：「互恵的な協力関係」、「グループの目標・個人の責任」、「生産的相互交流の促進」、「協同の体験的理解」の実施。③深い学び：NHK for Schoolの「昔話法廷」「自作のワークシート」を活用した「論点整理」を行った。</p>
<p>【講師からの指導助言】ラーニングピラミッドによると、他の人に教える授業は学習定着率が90%と最も学習効率が高い。人に教えるには、まず自分が理解していなければならず、さらに教えている最中に学びは深まっていく。教え合いを行うための時間確保が困難な場合、開始5分を活用して帯学習をすることも効果的。</p> 	<p>【講師からの指導助言】「主体的な学び」とは、現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見出し、課題を設定し、見通しをもって解決に向かって取り組んでいるかどうか重要になる。そして、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して新たな課題に取り組むことが望ましい。そのためには、実生活や実社会との繋がり・具体的な活動や体験、すなわちリアリティのあるクオリティの高い課題設定が求められる。</p>

1年 基礎標準コース 平面図形  
教諭 藤本 龍

【授業改善のポイント】①主体的な学び：導入に動画を見せることで身近な場面から数学の考察対象を見出すことを試みた。少しずつ数学的な視点を与え、繰り返し動画を見ていくことで、生徒の動画の見方が変容していく様子が見られた。必然的に学習課題を掴むことができたと感じている。

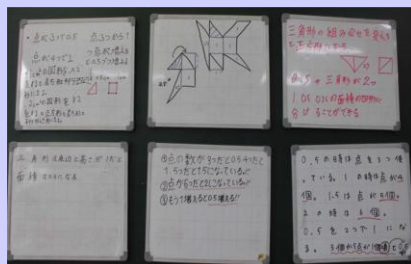
②対話的な学び：「しきつめ模様を作る」という本時の活動を終え、生徒からは、しきつめることが「できる図形」と「できない図形」にはどのような違いがあるのだろう？という声があがり、その疑問を解決しようと進めていくことで、生徒の見方が模様→図形→辺や角と移り変わり、図形に対する見方が豊かになった。③深い学び：見出した課題に対して、対話的場面を設定した。グループで自分の考えを発表することで、様々な意見から見方・考え方が広がった。また、それらの真偽を考えることで本単元における大切な見方・考え方に生徒自身が見出すことができた。

【講師からの指導助言】生徒が自ら解きたいと思わせる導入はよかった。生徒が日常から課題を見出し、数学的にとらえることはよい。そこから課題を数学的に解決し、再び日常場面に戻すことができればよい。数学の教材研究で困ったら、そのサイクルを思い出すとよい。また、導入から無理に次の学習内容につなげなくてもよい。単元の学習中に、本時の活動がずっと生徒の中に落ちる瞬間があるから、見方・考えをしっかりとおさえることが大切である。

1年 基礎標準コース  
比例・反比例 教諭 小林 達男

【授業改善のポイント】①主体的な学び：iPadに入っている「ジオボード」を使って格子点の数と多角形の面積についての関係性を見つけ出す授業をした。②対話的な学び、③深い学び：格子点の個数と多角形の面積)には実は簡単な式で表される関係(ピックの定理)が隠れていることを様々な考え方、手段で見つけ出すことで深い学び、更には対話的な学びができるのではないかと考えた。1年生では関数の領域で「比例、反比例」を扱い、その他の関数はほとんど扱わない。現実の世界にはいろいろな関数が隠れていることを自ら見つけ出し、それをうまく数学的に表現できないか考えさせる授業をした。

【講師からの指導助言】題材としては大変興味深い内容だと思われるが、時間配分がうまくいかなかった点や図形の面積の出し方の示し方など今後改善するとよい。「題材」をうまく使い更にそれを適切に導いていくことができないと結果的に深い学びや生徒の気付きに結び付けられない。思いもよらぬ意見や逆に、すぐに気付くであろうと思っていたことなどに実際には生徒は思うように反応しない。その生徒の反応をあらかじめ予測するなど、教材研究が必要である。



3年 標準発展コース 二次関数  
主任教諭 田畑 圭洋

【授業改善のポイント】①主体的な学び：日常の世界から数学の世界にもっていくことが難しい教材だが、動画を見せたり、実際にやらせたりすることで、生徒が自分たちで課題を見つけ、めあてを立て、ゴールに向かっていく。なぜうまくいかなかったのか、全班が原因を追究できた。今回のように失敗もあったほうが、生徒は主体的に活動できたと感じている。②対話的な学び：「話し合っただけで1つに絞っていく中で、また新しい視点を見つけられるサイクルが面白かった」と対話の意義やこれからの課題を感じ取っている生徒が多かった。発表の際は「自分たちは理解できているけれど、相手はそうではない。そこを考えて丁寧に説明をすべき」と誰かに何かを伝えるときに大切にすべきことを見つけた生徒もいた。③主体的な学び：日常の世界と数学の世界を何度も往復し、検証を行った。理解が深まり、どの数量とどの数量で調べるのか、 $x$ と $y$ をどちらにするのか、グラフを使うのか表を使うのかと考えることでよりよい表現を探していた。論理的な思考等、資質・能力の向上も見られた。

【講師からの指導助言】主体的に学習に取り組む態度を養うことに特に意を用いなければならない。講義形式では5%しか定着しない。学習内容との対話および先哲との対話。動画を見ていることもある意味対話。全てに共通する事項は何か、自分の考えとの違いは何かを比較するために自分の考えを明らかにする必要がある。

第2学年「天気の変化と大気の動き」

主任教諭 磯村 佳美

【授業改善のポイント】①主体的な学び：教科書に付属の探Qシートを活用して、主体的に課題に取り組み、自分の考えをまとめやすいようにした。②対話的な学び：3～4人でのグループワークを実施。探Qシートに記録した各自の内容を持ち寄り、対話的な学びの実現を目指した。③深い学び：グループの中で、疑問に思うことや考える過程について、理解を深める活動を行った。



【講師からの指導助言】子どもに対する思いが良かった。掲示物など視覚的な授業の準備をしっかりとしている。「主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」については、「見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、【規則性や関係性】を見いだして表現すること」とある。これができる単元授業構成を目指すべきである。問いにこだわると授業構成が違ってくる。

美術科第2学年「透視図法による平面構成」

主任教諭 大谷 知治

【授業改善のポイント】①主体的な学び：生徒自らが主題を設定し、その具現化に向けて材料や用具を選択し色彩や形に工夫を凝らすよう「構想メモ」によって作品の構想を練りながら徐々に主題を明確にしていく過程を重視した。②対話的な学び：様々な形態の「対話」の場面を効果的に設定することが、学びを深めるために重要な要素となることは明白であるが、作品の構想を練る段階においては構想の深まり具合に個人差が生じるため、むしろ必要なのは徹底した自分との対話であると考え。授業では構想メモによって自問自答しながら自らの表現意図を具現化させた。③深い学び：自らの力で構想を深め主題を見出す、つまり、上述した「主体的な学び」及び「対話的な学び」を実現することが「深い学び」の実現につながると考える。

【講師からの指導助言】発想段階から主題の設定、主題の具現化までの流れが計画的に示されユニバーサルデザイン化された授業であった。注目すべき点は、一点透視図法、二点透視図法、三点透視図法と、一通り作図できるようになっていることで、基礎的技術の習得に相当時間をかけていることがわかる。指導にあたっては、3観点の軸で学習内容を組み立てた方が評価との一体化も向上する。

第1学年「水溶液の性質」 教諭 綿谷 ひばり

【授業改善のポイント】①主体的な学び：自分の考えを大切に意識づけとホワイトボードを用いたグループワークを行った。個人で考える（ノートに書く）→グループで意見交流（ホワイトボード）→全体で共有という流れで実施した。安心して考えを表現することを普段の授業から徹底していかななくてはならないと再認識した。②対話的な学び：「前半：正解にこだわらない意見交流」では、個人の意見を共有して班の意見として発表する時には、無理に意見をまとめないように声掛けをした。「後半：正解を求める意見交流」では、今までの流れを意識した上で、意見交流を活発に行ってより正解に近づくように指示した。③深い学び：本時のめあて「水溶液とは？」について、beforeとafterで考えを書かせ内容を見比べて、学習を振り返らせた。



【講師からの指導助言】単元全体を通した問題提起が上手くできると、教員が「教えたこと」と生徒が「学びたいこと」を一致させることができる。生徒がその勉強をする必然性がうまれる（主体的に問題を見出す）ことで、学びが深まる。

音楽科 第2学年「合唱」 教諭 道田 恵

【授業改善のポイント】①主体的な学び：各パートで確認する時間を確保し、それぞれのパートが自信をもって合わせ練習に参加できるようにした。何度か音をとるうちに自信がもてたようであった。②対話的な学び：パート別の練習後、クラスを2グループに分けて聞き合いを行った。聞き合いによって互いの良い部分や改善点などが明確になり、意見を伝え合うことで互いに刺激を与えることができた。③深い学び：教師が活動の中で何度も「歌詞の内容」と表現をリンクさせられるように問い掛けた。これにより、単なる強弱練習ではなく、気持ちを込めて歌うなどの深める活動に取り組むことができた。

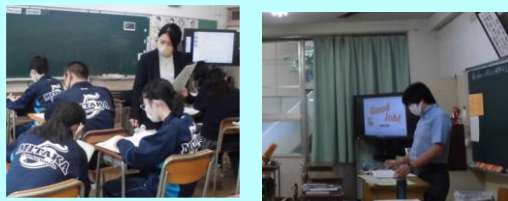


【講師からの指導助言】教師が常にやりたいことが明確であったことがよかった。（歌詞の内容に注目させるという点）コロナ禍で合唱コンクールの在り方は変化していく。「大きな声を出す」ということにこだわらず、生徒たちが自ら自分たちでより良い合唱を作り上げていけるための教師の働きかけが大切である。

<p>第3学年女子陸上「ハードル走」主任教諭 上竹 睦</p> <p>【授業改善のポイント】①主体的な学び：怖さを伴う種目なので、高さやコース、ハードルの材質などを複数用意し、チャレンジ内容を個人で選択させる。カードに基本技術や局面ごとのポイントを印刷し、カードチェックから出た疑問や課題についてアドバイスを書き込ませた。補強運動は個人に合わせて回数やスピードを変えられるようにHIITを採用した。②対話的な学び：第1時に「グリコ（遊び）」を用いて、体を動かすとともにアイスブレイクを行い、それをもとに、4人学習グループを編成した。協力し良さを認め合う姿勢を大切に指導している。苦手な生徒ほど「見る」こと「アドバイスし合う」ことから学んでいるので、練習を観察し、言葉かけをする。③深い学び：タブレットで動画を撮影し、再生して課題を見つけさせる。見本の動画と比較させる。各局面の意識から連続した動きへの意識に発展させる。アドバイスの際はポイントを言語化させる。</p>	<p>第1学年男子「創作ダンス」主任教諭 篠崎 勝正</p> <p>【授業改善のポイント】①主体的な学び：第1時に生徒の知っていることを整理する活動から始め、生徒がイメージをもち、主体的に学びに向かうことができるようにした。その結果、広い視野でダンスを捉え、授業に入ることができた。創作ダンスは、どのような表現をしてもよいという価値付けを行い、仲間の考えを絶対に否定しないなどルールを明確に示し、仲間と主体的に、自分の考えを表現することができた。②対話的な学び：テーマをもとに毎回グループ活動を行い、グループ内で話し合う場面を設定した。よい発想をもっていた生徒の考えを皆の前で体系化し、紹介する中で、次第に誰もが意見を出し合える雰囲気となり充実していった。③深い学び：創作ダンスと日常をつなげる中で、授業単体の学びとにならないようにし、オリンピックの創作ダンスを調べた生徒や次の時間の音源を提示した際に、家でその音楽を聴き、CMなどを参考にダンスの振り付けを考えてきた生徒が見られた。</p>
<p>【講師からの指導助言】主体的深い学びをよく考えられている。運動能力の低い子が助言によってできるようになったら、その変化を評価する。運動能力の高い子にも自分のフォームを見させて他の子に変化を聞くように先生が助言すると発展していく。</p>	<p>【講師からの指導助言】50分の中で21分30秒運動量があってすごく動いていた。生徒の様子を見て途中で小休憩を入れるなどもう少しメリハリがあるとよい。この時間には、この評価をすると計画が立てられている。</p>
<p>技術科 教諭 井口 仁隆</p> <p>【授業改善のポイント】ペーパーテストにとどまらず、実技テストを行い評価をする。題材の目標や授業ごとの作業のめあてを生徒に知らせ、常に目標やめあてを意識させる。「なぜ」「どうして」の思いを大切に生徒自身が主体的に個人の課題に取り組み、その取り組みを評価する。生徒の考えを広げたり、深めたりする場面を設定し評価する。作業の進捗状況を評価する。製作した作品を客観的に自己評価させる。評価の観点を提示して振り返らせる。（自己満足の範囲にとどめさせない）製作途中で起きた様々な問題点をどのように克服したかを記述させ、その解決策を評価する。</p>	<p>家庭科1年「界面活性剤」主任教諭 市川 洋子</p> <p>【授業改善のポイント】①主体的な学び：実験実習を自分で行ったり、演示実験を確認したりすることにより、目の前の事象を自分の目で認識する。夏休みの課題で、5回以上の洗濯実習を経験させ自分の課題として考えさせる。予想や事象を記入したり、界面活性剤をモデル化したりすることにより、見たことを視角的に捉えさせる。②対話的な学び：個人やグループ学習で予想をする、意見を発表する、黒板で発表する。③深い学び：汚れの種類を絞る。汚れ、界面活性剤、布をモデル化することにより、複雑な化学式を使用せず、浸透作用・分散作用・乳化作用・再汚染防止作用（4つの作用）の仕組みを理解する。</p>
<p>【まとめ】学ぶことに興味や関心をもたせ、授業規律を常に意識させて授業に臨ませる。学習した内容を実生活に活かせるように場面を設定する。技術の視点で問題を見出す力を育てる。生徒が考える場面と教師が教える場面をバランスよく設定する。</p>	<p>【講師からの指導助言】子どもたちが洗濯について困っていた場面や、なぜ予想させるのか、その必要性があるともっと主体的になる。学んだことをもっと探求したいとつながっていくと深い学びになる。界面活性剤はなんでもいいのか、どんな物にも使っているのかと考えたら深い学びにつながる。</p>

第1学年 Unit5 when の用法 主幹教諭 大金 泰光

【授業改善のポイント】①②主体的な学び、対話的な学び：間違いを恐れずに、相手と積極的にコミュニケーションを取るための方法として、疑問詞 when を取り扱ったゲーム活動やインタビュー活動等のアクティビティを取り入れた。③深い学び：疑問詞 when で始まる疑問文の形には、<When + be 動詞 + 主語 ~ ?>のパターンと、<When + do + 主語 + 一般動詞 ~ ?>のパターンが存在し、答え方にもバリエーションがあり、これらの事項について、アクティビティを通して理解を深めた。



【講師からの指導助言】テンポよく進められている。生徒たちは先生から与えられた課題を楽しそうに取り組んでいた。英語を身につけるために、ディクティションをやってさっと採点して返すのは1つの効果的方法であろう。

第2学年 Unit5 教諭 瀧本 泰

「防災バッグの中身をわかりやすく発表する」

【授業改善のポイント】①主体的な学び：導入時に Criss Cross(Quick Q&A で正解した生徒から座っていくゲーム)を行い、既習事項を用いた自分なりの表現を引き出すように工夫した。テンポよく行えたが、毎回同じようなメンバーが最後まで残ってしまうので、発問の仕方やルールを改善する必要がある。②対話的な学び：各パートが終わる毎に Talk & Talk(活用やオリジナルフレーズを含んだ会話のパターンプラクティス)において、毎回ペアの入れ替えを行った。補助の必要な生徒同士になった際に適切な机間指導と後の全体での確認を行うようにしたい。③深い学び：各助動詞の直訳的な意味だけでなく、意味合いの強弱や場面によっての使い分け等、実生活に関連を持たせて学べるように工夫した。

【講師からの指導助言】オールイングリッシュでの言語イメージやひたすら単語文法等のインプットをするだけでなく、対話中のリキャストやフィードバックを増やすことが、言語の定着には効果的であるという仮説が現在は主流である。

第2学年 Unit6 不定詞の用法 教諭 岩城 小百合

【授業改善のポイント】①主体的な学び：練習問題の時間に間違いを恐れず何度も挑戦するように学び合いのペアワークの時間を取り入れた。じっくりと落ち着いて考える時間をもう少し取るようにする。②対話的な学び：互いの考え方や他にどのような言い方や言葉が使えるか考え伝え合う学び合いの時間として活用するように促した。パターン練習では、その表現を使ってコミュニケーションを行う場面を想像させ、対話をするような時間を設定した。③深い学び：プレゼンテーションソフトを活用して、個による学習→グループでの学習→個による学習を繰り返し、個の学習を深めた。提示する問題の内容も少しずつ難易度をあげ、生徒が英語で言ってみよう！と思うように工夫した。プレゼンテーションソフトのまとめを写すだけではなく、自分の考えや学習したことを書き込めるノート作りをさせ、定期的に点検し評価していく。

【講師からの指導助言】基本的な文を板書して、練習問題を提示したりすると生徒が上手く活用できる。また、まとめの時間に教員がまとめを提示して写させるのではなく、新出文法のまとめを生徒に考えさせると主体的な学びにつながる。その後発表させることで、板書がクラスごとにオリジナルのものになりクラスごとに学びが深まる。

第3学年 Unit5 後置修飾の意味、形、使い方

主任教諭 太田 菜穂子

【授業改善のポイント】①主体的な学び：何が新しく何を学ぶべきなのかをなるべく生徒に自主的に考えさせるように仕向ける指導が必要である。②対話的な学び：生徒が教師に確認、質問するようになってきており、教師からの一方的な文法の教授ではなく、対話的な学習になってきた。必要最小限を教え、生徒に考えさせ、疑問点や確認点を質問させる。③深い学び：新出文法に加えて、関係代名詞全般を復習して系統的な理解につながるよう工夫した。

【講師からの指導助言】ニュアンスが違う表現や、表している内容が同じなのに表現が違う文について考えさせているのは良いが、考えさせるのをもっと大切にするべきである。「表現が不思議だね」「なんでだろう」といった発問によって主体的で深い学びにさらに効果的につなげていくべきである。



教育支援 国語科 「徒然草」 教諭 村上 麻実

【授業改善のポイント】古語の意味が分からないことで理解が進みにくい。紙芝居やイラスト等の提示で、情景をイメージしやすくすることを重点にした。  
①主体的な学び：古典学習への抵抗感を軽減するために、イラストを活用して内容を分かりやすくした。  
②対話的な学び：仁和寺の法師の人柄を表す言葉について考えさせ、伝え合う活動を取り入れた。  
③深い学び：筆者の思いについて考えることで自分の意見を表現する機会を設けた。

【講師からの指導助言】・流れの確認や、小道具の活用で、「楽しそうだ」と思わせた点はよい。  
・国語科という教科の学習であるからこそ、作品そのものを味わう楽しさを体験させたほうが良い。  
・主体的な学びに向けて、自分で考えなさいと指示したら、教師側は静かに待つことが大切。  
・対話的な学びに向けて、他人の意見を聞いて学ぶ場を設けるために、生徒同士の対話の場面を設定する。

教育支援 数学科「単位量あたりの大きさ」

教諭 菊池 将公

【授業改善のポイント】①主体的な学び：視覚教材を用いて、個数とお金の関係を比較した。イメージをもち、見直しをもって計算に取り組むことで積極的に課題に取り組む姿が見られた。  
②対話的な学び：生徒の発言を掘り下げ、会話でのやり取りを通して考えを深め、本時の課題に向かわせた。  
③深い学び：授業内で学んだことを生かして自ら問題を作る場面を通して、生徒の学びを深めた。

【講師からの指導助言】1個あたりの大きさを求めるにあたり、なぜその考えが必要なのか、その他の考えと比べてどちらの方が良いのかなどを感じさせる時間があるとよい。生徒の発言を大事にし、めあてに固執して考えを無理やり誘導しない。生徒自らが気づくことで理解が深まっていく。問題に取り組む時間を作る。自力解決の時間にて学習量を確保していく。



教育支援 社会科「世界の古代文明と宗教のおこり」

教諭 井桁 順子

【授業改善のポイント】①主体的な学び：教科書の内容に沿ったプリントを作成し、すべての漢字にルビをふる。写真を多く取り入れ視覚的にわかりやすいよう工夫した。  
②対話的な学び：発言を促す為に個々に合わせた質問を行った。答えた事を肯定的に答えやる気を失わないよう働きかけた。  
③深い学びの実現：社会に興味のない生徒が多いので、タブレットを使い情報を得る、わかる体験を増やした。わかる経験が後の社会への関心につながるよう配慮した。

【講師からの指導助言】授業内容について、全体的に伝えたい内容をもっとスリムにわかりやすくする。タブレット、プリント、地図帳など多くの資料を使うので、今どの教材を使っているかなど明確に示す。もっと生徒の発言を待つ時間を設けた方が生徒の知りたいと思う気持ちが育まれる。

教育支援英語科「比較級最上級」主任教諭 中村卓郎

【授業改善のポイント】①主体的な学び：最上級-estを用いたクイズをプレゼンテーションソフト教材により提示した。少人数の利を生かし一人ずつ反復練習を行い定型文の習得ができたことで、次の課題に抵抗なく移行し、主体的に取り組む様子が見て取れた。  
②対話的な学び：アクティビティにおいて、タブレットを使い自らが興味関心をもつ題材を選べるように設定したことで、相手に伝えようという意欲を高めることができた。  
③深い学び：most への移行としてあえて答えを推測させる課題をまとめとして行うことで、次の授業への期待感を高めることができた。

【講師からの指導助言】適切な修正フィードバックを与えれば、どの生徒もできるようになる。質問→答え（間違える）→修正→繰り返す（できる）。どれだけ残るかは検証課題だが短期間としては十分な成果が見られる。ある程度の難しさがなければ子供は考えない。最近の中学校は簡単な課題を与えすぎる傾向がある。手をかける＝足場架け≠甘やかす。



## プロジェクトチーム

授業改善推進拠点校では、指導と評価の一体化による授業改善を組織的に推進する取組を実践に研究・開発し、その成果を全都に普及していくために、以下のア～カについて取り組む。

- ア 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の効果的な分析方法の開発・実践
- イ 授業改善の実現に向けた組織的なOJT推進の実践事例の開発
- ウ 児童・生徒一人一人の学びに向かう力等を育む指導方法の開発・実践
- エ 効果的な家庭学習の指導事例の開発 才 研究・開発による成果の全都的な発信及び普及
- カ その他、児童・生徒の学力向上を推進する取組

※3つの共通事項を生かして各プロジェクトを進める。

	ア 分析	イ OJT	ウ 学びに向かう力	エ 家庭学習	オカ 発信普及
1年次	都の意識調査 全国学力調査 市の学力調査 教科ごとの中間・ 期末、その他の調 査の分析 	・一人一研究授業 ・授業を参観し合う ・日常的な評価等 の情報交換 	指導計画・評価計 画の作成と生徒・ 保護者への提示 （少なくとも研究 授業の単元は指導 計画・評価計画を 添付する。 すでに取り組んで いる教科は1年分 作成。）各教科の取 組 	・家庭学習の方 法の検討と提案 ・iPad を用いた 家庭学習 	基礎研究 研究報告 に基づいた リーフレットの 作成 
プロジェクトチーム	◎磯村◎竹之内 合田 市川 杉本 田畑 太田 菊池	◎大金 ◎小林 大谷 岩城 道田 村上	◎磯村 ◎大金 篠崎 綿谷 飯塚 大森 中村	◎小林◎竹之内 藤本 瀧本 上竹 井桁	◎酒井 ◎小林
プロジェクトの内容	・都の調査と 全国の調査の 関連分析 ・学校調査と 生徒調査の関 連分析	・一人一研究授業 ・授業参観し合う ・日常的な情報交換 ・効果的な指導を 行っている教員 の指導方法の共 有など	・正答(誤答) だっ た生徒に共通の 学び方 ・高い成果が見ら れる生徒の共通 の学び方 ・指導記録、評価記録 ・個人票、面談	・五中生にとっ て効果的な家 庭学習の検討。 ・iPad を用いた eライブラリの 活用 ・その他の家庭 学習の検討	・基礎研究 ・研究報告書 ・リーフレッ ト作成
企画・実施・検証・改善、実践事例の収集					
2年次	都の意識調査、全 国学力調査、市の 学力調査、教科ご との中間・期末、 その他の調査の 分析	・一人一研究授業 ・授業を参観し合う ・日常的な評価等 の情報交換	・指導と評価の一 体化による授業 改善、指導計画 ・評価計画の作成 と生徒・保護者 への提示	・家庭学習の方法 ・学習マラソン の活用	基礎研究、研究 報告に基づいた リーフレットの 作成
3年次	効果的な分析方 法の開発・実践 都の意識調査結 果や全国学力調 査結果を面談で 示す。	研究発表会での 授業公開 授業改善の実現 に向けた組織的 なOJT推進の実 践事例の開発	指導計画・評価計 画の完成、生徒・保 護者への提示 学びに向かう力等 を育む指導方法の 開発・実践	効果的な家庭学 習の指導事例の 開発	基礎研究 研究報告書 研究紀要の作成 研究発表会



## 令和4年度に向けて（令和3年度の成果と課題）

### 1 主体的・対話的で深い学びの過程の実現、指導と評価の一体化について

- ① 今年度は、授業で生徒が主体的に課題に取り組むよう、導入時における「ねらい」の明示→生徒の学習意欲を引き出す課題の提示→個人で教材との対話、ペアや4人グループでの意見交換など対話的な場面を設定して、深い学びに結び付ける工夫を行う→まとめの場面で学習内容を確認し、その時間に学んだことの振り返りを生徒自身の言葉で記述するという授業展開に取り組んだ。図1 R3 全国学力学習状況調査結果の第1四分位にあたる生徒の中にはあきらめてしまう生徒がいるので、教員の個に応じた指導を継続する必要がある。また、研究授業の成果をどの単元にも生かし、継続的に実践していくことが重要である。
- ② 全教科で取り組む共通3項目【○プリントやテスト問題のユニバーサルデザイン化○対話的場面、話し合う場面を設定する。○学習を深い学びに結びつける。】については、どの教科も工夫して実践した。特に、定期考査でユニバーサルデザインの視点から問題用紙と解答用紙の書式などに工夫を加えた結果、平均点上がった教科や、生徒から、問題が見やすくなって早く解けるようになったと感想が上がるようになり、成果があがったととらえている。
- ③ 今年度評価の観点が3観点に変わり、各教科の指導計画・評価計画を単元ごとに作成した。今後は生徒や保護者にもそれを伝え、生徒自身にも学習の進行を把握させ指導と評価の一体化を図る必要がある。
- ④ 先行研究に取り組んだ学校によれば、パフォーマンス評価や作品の評価、ワークシートの評価をどのようにつけるのかといったルーブリックを教科ごとに作成し、あらかじめ生徒に示したことにより、「先生たちは自分たちの良いところを認めてくれる」という生徒の意識調査の肯定率が全教科で8割以上を達成したという報告がある。本校の指導と評価の一体化の研究に取り入れる必要がある

### 2 家庭学習について

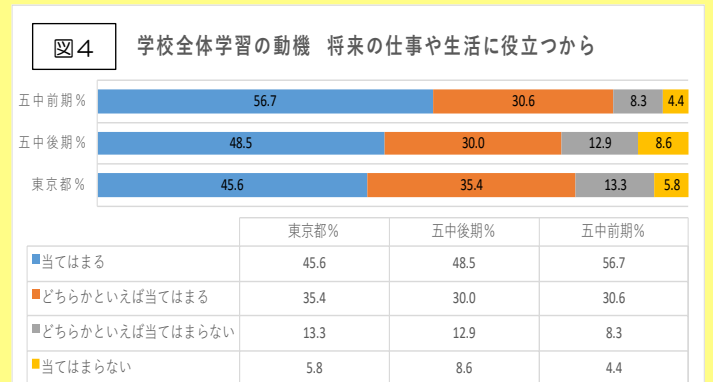
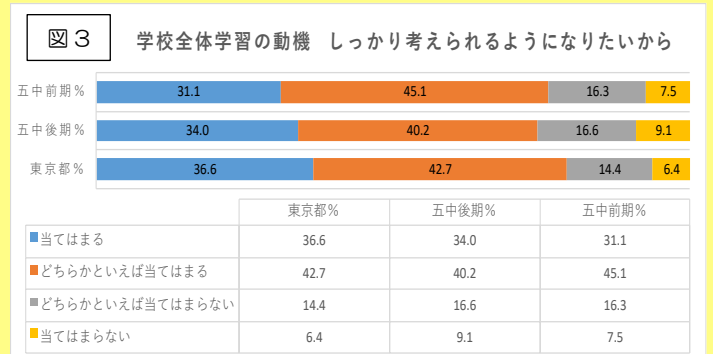
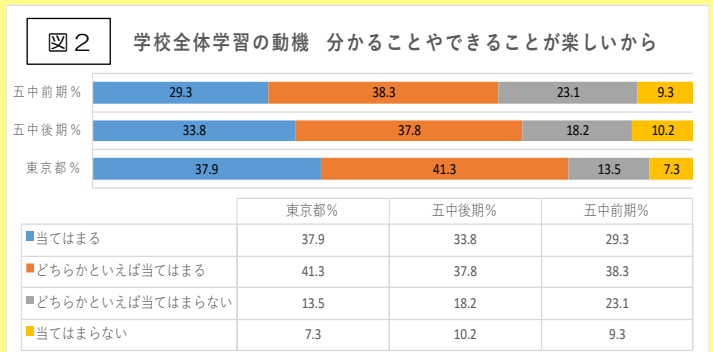
家庭学習プロジェクトではeライブラリに取り組んだ生徒の中に、意欲的に取り組んだ生徒がいる。この他の家庭学習の取り組みせ方や提示方法については引き続き検討する必要がある。また、同プロジェクトでは学習マラソンをiPadで配信する計画を立てたが機能との整合性がとれず、検討中である。

	国語			数学		
	貴校	東京都(公立)	全国(公立)	貴校	東京都(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問	13.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	9.0問	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問	7.0問	8.0問	7.0問	6.0問



### 3 生徒の内発的動機付けの変容（都意識調査結果より）

本校は、都意識調査の学習動機の図2「分かることやできることが楽しいから」、図3「しっかり考えられるようになりたいから」、図4「将来の仕事や生活に役立つから」という内発的動機を高めることで学習意欲を高め、学力向上を図ることができるのではないかとこの仮説を立て研究に取り組んでいる。「わかることやできることが楽しいから」については、前期（6月）より、後期（11月）の意識調査の肯定率が高まった。これは、主体的・対話的で深い学びの過程を実現する授業改善の成果ととらえている。しかし、「しっかり考えられるようになりたいから」、「将来の仕事や生活に役立つから」については肯定率が下がってしまったので、授業で、「考えさせること」や「学習が将来の仕事や生活に役に立つ」ことについて理解させることにさらに取り組む必要がある。学習が「自分のためだと考えること」、「目標のためだと考えること」、「目標を立てて始めること」、「する理由を考えること」という経験を授業でさせ、学習意欲向上、学力向上に結び付けていきたい。



#### おわりに

本校は、令和3～5年度東京都教育委員会授業改善推進拠点校として「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～指導と評価の一体化の実現～」を研究主題として、研究推進部を中心に研究を進めてまいりました。令和4、5年度も授業改善を続け、確実に生徒の学力向上につなげていく所存です。

最後になりましたが、東京都教育委員会、三鷹市教育委員会、国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官の山森光陽先生、意識調査の分析・研究授業・研究協議会等のご指導をいただいた講師の先生方、研究授業をご参観くださった鷹南学園のCS委員・先生方に心から感謝申し上げます。

#### 令和3年度 研究に携わった本校教職員

[校長] 大野 浩史 [副校長] 酒井 佳子  
 [主幹教諭] ○大金 泰光 [主幹養護教諭] ○竹之内 留美  
 [主任教諭] ○磯村 佳美 合田 あゆみ 杉本 朋子 飯塚 修爽 大森 拓  
 田畑 圭洋 大谷 知治 上竹 睦 篠崎 勝正 市川 洋子 太田 菜穂子  
 中村 卓郎 [教諭] ○小林 達男 藤本 龍 綿谷 ひばり 道田 恵  
 岩城 小百合 瀧本 泰 村上 麻実 菊池 将公 普光江 真有  
 [産体育休代替] 井桁 順子 [非常勤教員] 岸谷 秀和 井口 仁隆  
 [講師] 井上 章子 恒元 雄貴 [経営支援本部等] 藤倉 理沙 小原 美佐子  
 三宅 幸子 佐藤 紀子 勝本 賢一 佐野 泰弘 市川 恵美 池山 恵子  
 菅野 聡美 有村 治世 今村 佳代子  
 ○研究主任 ○研究推進委員

